

令和5年度第1回うきは市総合教育会議 議事録

日時 令和6年2月8日（木）開会19時00分 閉会20時30分

会場 うきは市役所 2階庁議室

出席者	◆委員（敬称略）	市長	高木 典雄
		教育長	樋口 則之
		教育長職務代理者	平位 秀敏
		教育委員	處 愛美
		教育委員	家永 由里子
		教育委員	古賀 公彦
		◆意見聴取	学校教育課指導主事
	北筑後教育事務所指導主事	伊東 勇治	
◆事務局	学校教育課		
	企画財政課		

議事 (1)子どもの自尊感情を高める教育について（意見聴取）
(2)質疑・意見交換
(3)その他

議事録

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事

●市長

子供の自尊感情を高める教育について、指導主事の方からご説明をお願いします。

●物部指導主事

よろしくお願いします。

先ほど市長からもありましたが、自己肯定感や自己有用感、いわゆる自尊感情については、全国的に低い数値が全国学習状況調査結果より出ています。そしてさらに、うきは市は長い間全国平均を超えていません。まずは、うきは市の子どもたちが今、この自己肯定感や自己有用感がどういう状況にあるのかというのを私の方から説明しまして、それを踏まえて今年度取り組んだこと、最後に来年度に向けての課題について、3本立てでお話ししようと思います。

自己肯定感、自尊感情というのは、生まれてきてよかったとか、自分にはこんなことができることがあるとか、いいところがあるぞという気持ちであると捉えています。うきは市では、①自分の想いや考えを素直に話すことができる、②自信を持って様々なことに挑戦する、そういう意識のある子どもになることを目指しています。しかし、全国平均をなかなか超えることができていません。どういう状況なのかというのを、調査結果から分析しました。

まず個人の状況について。個人は今どういう状況にあるのかというのを、「全国学習状況調査」の結果から見てみます。その後に、集団の中においては、「アイ・チェック（i-check）」という調査の結果を見ながらお話しします。

全国学習状況調査の児童（生徒）質問紙には、◎自分にはよいところがある、◎将来の夢や目標を持っている、◎人の役に立つ人間になりたい、という気持ちを4段階にて自己評価させる設問があります。まず令和4年度の結果をご覧くださいますと、ほとんどの項目で小学生・中学生ともに平均を下回って

いるのが分かります。特に、◎自分にはよいところがある、についての小学6年生の結果は、9ポイントも下回っています。次に令和5年度の結果をご覧ください。一つだけ全国平均を超えたところがあります。◎将来の夢や目標をもっている、について初めて小学6年生が超えました。この学年だけという可能性もありますが、今少しづつ全国平均へ近づいているのではないかと思います。さらに広げて令和3年度から経年で見ると、低いと言いながら実は上昇傾向にあるのです。このようにうきは市の中で見ると、一步一步自尊感情が高まっているということがわかります。

次に、集団の中において子どもたちはどのように感じているのか。「アイ・チェック」から見ていきますが、自己肯定感を縦軸、学級適応感を横軸としてマトリクス表で示されています。これは、いろんな課題を持つ子どもの発見に非常に効果的なものです。先ほど個人の時と似たような3項目で見てみましょう。今年度小学生においては、全国比を上回る学年が多くあります。一方、◎先生から期待されている・友達からたよりにされている、については全国的にもうきは市としても低い数値です。私も褒めていたつもりだったのに、と考えさせられたところです。同じように中学生で見ると、ほとんど全国平均を下回っています。学年が上がるにつれて数値は下がるという傾向も見受けられます。特に、◎先生から期待されている・友達からたよりにされている、の項目はなんと一桁となってきました。

このことをもとに、うきは市では今年度どのようなことを取り組んだかということ、児童会生徒会合同会議、スポコン広場、学びを振り返る時間の設置の3つです。児童会生徒会合同会議とは、指導主事がホストとなり各小中学校をZoomでつなぎ、テーマについて意見交換を行うものです。他の学校の意見や取り組みを自分の学校でも実践し、その結果を次のZoom会議で報告する、うまくいったならお礼を伝える。今年度は子どもたちからも先生からも、価値づけがよかったと評判で、来年も続けていこうと思っています。2つ目のスポコン広場について、北筑後地区大会へクラス全員で参加するという大きな目標を立てました。ここで子どもたちは、成就感や連帯感をしっかり味わえたのではないかと思います。こういうスポーツを使った取り組みも非常にいいなと思いました。3つめは今一番力をいれていることで、授業中に学びを振り返る時間を設定するということです。タブレットを活用して行うので、それぞれが思ったことをタブレットに書き、それを他の子どもたちに共有しやすいという利点があります。また、次の時間にはどんなことをしたいかということを入力させれば、タブレットが集約をし、先生は学習計画の組み立ての参考にもなります。ICTをうまく活用して、子どもたちも達成感や満足感を味わうことができたようです。今年はこの取り組みを行いました。これらの成果が来年の「アイチェック」にどのように反映されるかと思っています。

最後にうきは市の課題をもとに考えられる対策を2つ。◎将来の夢をもっているか、の項目が下降傾向にあることから、「夢」への過程を大事にさせるということです。「夢」や「目標」を設定するだけでなく、そこに向かってどんな風に努力していくのか、その過程を評価する教育活動が必要だと思います。2つめは、先生や友達からの期待感の数値が低いことから、子どもたちに任せる場面を多く設定することです。子ども同士で目標をつくらせたり、先生から任されたという感覚をつけさせたり、そしてまたそれを評価する時間を設けるべきと考えます。

私からは以上です。

●伊東指導主事

よろしくをお願いします。

私は教員生活23年目を迎え、うきは市内の学校には6年前に勤めておりました。振り返ってみると私も子どもと一緒に汗をかいて遊んだり、授業作りに励んだり、なんか本当ギラギラした毎日を感じてたような気がします。その学校では大縄跳びに一生懸命取り組んでいて、最終的には3分間に550回跳べるようになり、24時間テレビに出場するほどでした。

～当時の大縄跳びの動画～

もう目が回るような跳躍ですよ。朝も昼も放課後も毎日、もう本当に部活動のように縄跳びに取り組

んで、縄跳びで学級経営をしたいなと思ったわけです。なかなか最初は喧嘩もありました。跳べない子を責めたり、何で行かないんだって。それを乗り越えてここまでの成果をあげました。その頃受け持った子どもたちが今年成人を迎え、二十歳の集いに呼ばれて。その日その場で思い出の長縄跳びをやりてみようとなりました。その時の動画をご覧ください。

～二十歳の集いの日の大縄跳びの動画～

この後、特に縄跳びが苦手だった子たちに、あの時どうだった？ やってよかった？ って聞いたんです。そしたら、最初はやっぱり嫌だったと言ってました。続けて、だけどやっていくうちにできるようになったから結果やっぱりやってよかったし、友達が上手と褒めてくれたのが嬉しかった、と言ってきて。私が大縄跳びを通して学んだことは、子供に目標を持たせて、そして鍛えたこと、これがやっぱり一番の成果かなと思います。そしてそれをずっと継続しました。心が折れそうになったときもありましたが、2年間徹底してやりとげたことが良かったと思います。それらが、子どもたちの良さや個性を伸ばすことに繋がったんじゃないかなと今振り返って感じています。

それでは本日のお題、自己肯定感や自己有用感を高めるために何をしたらいいのかというお話をさせていただきます。

まず、自己肯定感とは何かということからお話しします。漢字のごとく自己に対して肯定的な評価を抱いている状態と辞書にあります。同義の意味として、自尊感情と同じだという風にも書かれています。自尊感情が高い人は、物事に積極的に取り組んだ自分のことが好きだったり、他者に寛容であったり、やる気に満ち溢れている特徴があります。逆に自尊感情が低い人の傾向としては、自分に自信がなく、どうせ自分なんて何やっても駄目だ、と「どうせ」と口癖のように追加してしまうということがあります。今まで私が持った子どもの中にも、自分はどうせ何もできない、兄弟の中でも一番出来が悪いし、なんてそういう自尊感情が低い子どももいました。続いて自己有用感とは何かというと、他人の役に立ったと相手の存在なしには生まれてこない感情、と書かれています。つまり、他者によって評価されたことで自分の良さを見つけていく、という感情が自己有用感です。ここで自尊感情と自己有用感の関係を整理します。自尊感情というのは自分の中で自分の良さを感じる感情のことです。つまり他者評価の自己有用感を自尊感情が含んでいる、包含的な関係であるのではと私は思います。したがって、自己有用感が低ければその子の自尊感情はなかなか上がらないわけです。

ではどんな視点でどんな活動を仕組んでいけばいいのかということについて本題に入っていきます。先ほどの報告から見えた、うきは市の問題点をまとめてみました。

1つ目として、将来への展望が持てない、他者からの評価をなかなか認めきれないという課題がありました。目標設定というのは実はいつもされてあります。学校として、子供たちもしています。ただそれが、やってみたい挑戦したいという子ども自身の主体性に繋がっていないのではないかと考えます。裏返して言えば、子供がやっているように見えて実は教師が指示しているだけで終わっている、そのような状態かなと思います。2つ目として、友達のことを認めることができないという調査結果がありました。他者と協働して課題解決する経験が少ないのではと考えます。困難なことに対して他者と協働して課題解決することが必要です。3つ目は、教職員の問題点にもなりますが、「どの学級・学校でも行っているけど、どの程度できているのか分からない」というような状況把握ができていないことです。これら、3つの問題点を解決していくためのキーワードは、『共有すること』、『協働すること』ではないかと考えました。自尊感情を上げていくために、私が考える方策は次の3つであると提案します。

1点目は学校体制の確立です。、学校力という言葉がよくあります。もちろん教師の力なしでは学校力は発揮できません。ただ、エースの先生1人がやるだけでは発揮できませんから、そこにくっついてくのが組織力と言われるものです。この教師力と組織力がくつつくことで、学校がチーム化し、大きな学校力となっていくわけです。これをより高めていくためには、協働化・共有化が大事になります。何を共有するのかというと、目標を共有すること、方法を共有すること、価値を共有することです。よく学校現場では、ただ最終的にどんな姿にしていきたいのかというのを紙に書いてだけで、あまり共有

できていないことがあります。ここでは最後の姿としてどんな姿になればいいのかというゴール像を全員で共有するということが大事になります。続いてその目標が明らかになったら、次どうやってそれを共有するか、ICTをどう生かすか、どんな方法で迫っていくかという共有化も大事です。そして、なぜそういうことをしないとイケないのか、それをすることでどんな良さがあるのか、価値の共有は何よりも大切になります。また、先生だけが共有してもだめで、子どもと一緒に目的を理解した上でやることが、学校体制の確立にも繋がっていきます。次に、協働化についてです。ここでは誰が何をするか、そしてその子どもの頑張りをどのように評価していくか、という仕組みを築いていくことが大事です。教師が全部やってしまうと自尊感情の高まりにはつながりません。子どもに任せて、子どもと一緒に協働し実践していく、そんな仕組み作りが必要ではないかと考えます。

2点目は、児童生徒自らの必要性・意義の理解です。最近の教育現場では、自分で判断・決断して実行するという教育活動が疎かになっているような気がします。総合的な学習の時間や学級活動の時間があまり機能していないからです。以前、吉井小学校が修学旅行に長崎に行った際に取り組んだあることが西日本新聞に掲載されました。平和学習したり観光したりと、その文化を味わって帰るだけじゃただのお客さんになってしまう。そこで、学びに行くけども学びを発信もして来よう、ということで、長崎市観光協会にうきはの魅力をPRするという取り組みを行いました。また、うきは市の小学生がアプリ制作企業の協力のもと、うきはの魅力を発信する観光アプリを立ち上げた事例もあります。これらのように、学校のために町のために子どもたちが本気になって取りかかる総合的な学習の時間が、最近少なくなってきていると思います。こんなダイナミックな取り組みはいつもできないからという理由もあります。そこでもう少し気軽に取り組めることがないか調べてみたところ、福富小で面白いものがありました。遠足のコース決めです。まずは教師と児童で遠足の目的も共有します。その後6年生が主体となり話し合っ、コースをいくつか策定します。協働化です。そしてコースの魅力をみんなにプレゼン提案し、全校にアンケート調査をする、そんな取り組みです。このようにスモールステップでいいから、共有化と協働化を繰り返しながら学級運営をすることで、自らの必要性を見出していくことができると思います。これまでよく言われていたPDCAサイクルはどうしても時間がかかってしまいます。遠足のコース決めの例のように、GCRサイクルやAARサイクルで構わないから参考に取り入れていくべきだと考えます。

3点目は、教育委員会の指導体制とリーダーシップの発揮ということです。うきは市ではどの学校でも「志を持って自ら学び、ともに心豊かにたくましく生きる」という子ども像を目標にはしていますが、9年間というスパンで考える必要があると思います。良い取り組み事例は他の小学校にも提案して協働化しておきます。さらにその状況を中学校にも共有するのです。そんな環境で学習した児童が揃って中学校にあがると、よいスタートを切れるわけです。学校間の調整や提案、予算的支援という面は教育委員会の役割になりますのでしっかり支援する必要があると思います。

以上が、共有化・協働化をキーワードに私が考える自尊感情を高めるための方策でした。現在、県でも自尊感情を高めるために「鍛ほめ福岡メソッド」という指導方法を推進しています。これはGCRサイクルとも似ていますが、これらようにさまざまな有効な仕組みが存在しています。うまく活用して、児童生徒たちの自尊感情を高める取り組みを行ってほしいと思っています。

私からは以上です。

●市長

ありがとうございました。

それでは委員のみなさまから質問や意見のご発言をお願いします。

●委員

日本の子どもの精神的幸福度は、先進国38国のなかで37位だそうです。つまり自己肯定感が世界

的にも低いというわけで。私も、自尊感情ベースに自己肯定感があるのだと考えています。他人からありのままの自分を認めてもらうことで自己肯定感は生まれます。ということは基本的に、私はここにいていいんだという自己肯定がまずベースとしてあるということです。このベースの構築については、家庭教育も重要な材料のひとつだと思います。子どもの精神的幸福度ランキング上位のオランダ等の国を想像してみると、あなたが大好きよ、誇りよ、と別に何かできたからではなくそのものを認めて褒めてあげるそんな文化だと思います。そういう日常が自尊感情の高いベースを築き、自己肯定感につながっていくのです。

学校での教育においては、「ここまで頑張りましょう」という目標を指定された言い方をされると、今のままじゃ駄目という捉え方をしてしまう子どももいるんじゃないかなと思います。先生方も一生懸命にされてある中でこれはなかなか難しい論点ではありますが、指導主事お二人の言うように、子どもたちがいかに主体的に自分のことを伸ばしていくのか、目標設定をしていくのか、というのが大事なのだろうと思いました。

●委員

自尊感情や自己肯定感というのは、自分には良いところがあると思うことだとよく言われますが、私は、良いところも悪いところも含めて自分のことが好きだと思える感情、自分のことを大切に思える気持ちでもあると思っています。指導主事の言うように、どんな結果であっても評価をする、価値づけをするということが大切なのだと思いました。

やはりそういう気持ちを育てていくのは、バランスよくしなければならないですね。自己評価や自己受容ばかりしていて、他人との関係づくりが疎かになってしまっただけではいけません。一方で多様な人と関わるなかでの役に立つことを重視しすぎると、今度は自己主張がなくなってしまうたりとか。学校や家庭でバランスよく育てていくというのは難しいなと改めて思いました。

子どもたちには、私たち大人もわくわくするような経験をさせてあげるといいと思います。総合的な学習の時間というのは、もっともっといろんなことを知りたい、やってみたいと子供たちが思う、そして先生がこういうことだよ、こういうふうにできるよと提供していく。そういう時間だと思います。子どもたちもそして先生もわくわくしながら取り組んでこそ、達成感が生まれ、自己肯定感につながっていくのかなと思いました。わくわくの仕組みづくりを、学校として、教育委員会として、市として、どう支えてあげられるのが課題ですね。

●委員

わくわく感は私も大切だと思います。自分は小学、中学、高校と、割とわくわくしながら育ったタイプで、クラス委員なんかに率先してなる方でした。小学3年生でのことです。クラス委員としてクラスをより良いものにしようと自信を持って行動していたのですが、周りの友達は良く思わなかったようで、威張っている、いい子ぶっていると学級会で言われてしまいました。落ち込んでいたそんな時に担任の先生は、「クラスのために頑張っているんだよ、そういうところを認めてあげることもクラス運営のひとつだよ」とみんなの前で言ってくれて。その担任の先生の一言に、私はとても救われたし、クラスの雰囲気も良い方に変わって、私のしたことは間違っていなかったと自信がついたという思い出です。もちろん、わくわく感のもとみんなで行き届くことも大切ですが、そんな中で一人でも取り残される子がいては駄目だと思います。そういう細やかな気づきも必要ですね。

それと、わくわくの仕組みづくりは、学校だけでなく、地域も巻き込んでいいと思いました。

●委員

「アイ・チェック」の結果の、「先生から期待されている、友達からたよりにされている」という項

目、全国的にも低いですが、うきは市の中学生はさらに低く、1桁だということにとっても驚いています。まずは全国平均を目指して上げていく必要がありますが、どのようにして上げていくかが課題ですね。

指導主事の報告にあった、児童生徒自らの必要性・意義の理解における良い事例について、取り組みの着眼に感心しました。改めて総合的学習の時間の大切さを感じさせられました。他には、部活動とかスポーツでも当てはまると思っていて、自己肯定感を高める有効的な材料になると気づいたところでした。

●市長

ありがとうございました。

樋口教育長や指導主事のお二人からもお願いします。

●教育長

やはり自尊感情を高めるには、子ども主体で学ばせないといけません。なかなかそれは難しいことですが、あたかも子ども自らで目標を見つけたように、あたかも自分たちが継続して取り組んだように、教師が仕組む。そして達成感を経験させる。教師の腕の見せどころでもあると思います。指導主事の報告にあった良い事例なんかは、他の学校でも実践できると積極的に発信し、広めていくということは非常に大事だろうとつくづく思いました。そういう広めていく時に、教育委員会がどう関わっていくかということだと思います。

また、これは有名な話ですが、日本理化学工業というチョークを作る会社の話です。社員の大半が知的障がい者。はじめは、施設から知的障がいのある子を2人程、まずは2週間の就業体験で、というところからだったそうです。当時の社長の不安をよそに、2人はどうしたらこんなに一生懸命になれるのかと思うほど、これ以上ない幸せそうな顔で働いていて。就業体験が終了するころには、従業員たちから「彼らを雇ってほしい」と申し出があり、会社の空気を変えてしまうほどだったと。社長は、どうして彼らはあんなに一生懸命に働けるのか疑問で、近くのお寺の住職に投げかけました。すると住職は、こう答えたそうです。「人の究極の幸せは4つあります。1つ目は、人に愛されること。2つ目は、人に褒められること。3つ目は、人の役に立つこと。4つ目は、人から必要とされること。愛されること・褒められることは施設や家庭でされても、役に立つことや必要とされることは、働くことでしか得られません。あなたの会社が、彼らの4つの究極の幸せを満たしてあげたからでしょう。」これは今日のテーマにもつながるエピソードだと思います。自尊感情というと非常に難しそうに聞こえますが、実はそれほど難しいものではなくて。こういった4つの視点から子どもたちを育てていくことが鍵なのかなと、そう思いました。

指導主事のお二人には、良い学びをいただきました。ありがとうございました。

●市長

樋口教育長、ありがとうございました。

私から物部指導主事の先生へお聞きしたいのですが、あのよういうきは市の自尊感情が全国的に見ても低いという現状の、原因は何だと思われますか。

●物部指導主事

やはりGCRサイクルのように、自分でゴールを設定して実践する、そしてそのゴールに自分は何%近づいたのか評価してみる、という教育活動が少ないことが原因かと思えます。それは教員に対してもそうで、一年ごとに振り返る自分の学級運営について評価をしているようでもまだまだ足りていないと思います。

また、子どもたちが設定したゴール像だったりを、「共有する」ということに至ってはかなり弱い。

総合的な学習時間をもっと活用する必要があると思います。4月に全教職員研修会がありますので、福富小学校の遠足の事例を共有し、GCRサイクルの提案を行おうと考えています。

●市長

ありがとうございました。

教育環境が整っている大都市に比べ、うきは市は地方都市で教育環境がないと言ったらそうかもしれませんが。私は、その自然豊かである環境を利用して、のびのびとたくましく、子どもたちに育ててほしいと思っているのですが、そういった視点で自己肯定感をあげるきっかけづくりはできませんでしょうか。

●伊東指導主事

うきはの良さというのは、素材がたくさんあるということだと思います。もの、こと、ひと、が揃っていて、例えばひとについてであれば、以前授業でキャニオムの社長さんにお話を聞いたこともあります。東京とか大きなところではできないことが、うきはであれば普通にできてしまいます。たくさんある素材を教職員がうまく調理・加工して、子どもに触れさせていけば、自尊感情にもつながる学習ができると思います。

●市長

ありがとうございます。

他に意見がある方はどうぞ。

●委員

子どもたちに自尊感情を持たせるには、まずは先生たちがそうでないと。先生たちに自信がなければ子どもたちにも伝わってしまうし、どんなに一生懸命にしても仕方がないと思います。そんな先生たちへの働きかけはどのようにしたら良いのでしょうか。

●物部指導主事

福岡県の若年教員研修は昔と比べ、期間も長くなり手厚いシステムにはなっています。しかし、そのシステムにうまく乗っかることができない先生もいらっしゃいます。その特徴としては、研修1年目、2年目と重ねても、自分をうまく評価できていないところだと思います。先生としての自信をつけさせるためにも、教育事務所や校長が成長していることの価値づけをしてあげたり、とにかく褒めてあげるということに重きをおいています。

これは国レベルの話になりますが、警察学校のように教員学校があって、現場に出ながら学べるような仕組みとか。小学校でも、担任に加え副担任を付け二人体制にしたりとか。そんな仕組みになれば、先生自身の設定するゴールのイメージがわいて良いのではないかと、個人的に思っています。

●委員

やはり先生たちも余裕がないのではないのでしょうか。不足しているとは聞きますが、教員の数を増やしていただきたいですね。

●教育長

時間にゆとりがなく、自分の趣味の時間がとれない、そうなるとう先生の魅力がないのです。子どもたちを引き付けるような特徴や個性が欲しいですね。

●委員

市長がおっしゃるように、子どもたちに地域に誇りを持って育ててほしいというのであれば、先生はもちろん周りの大人がそういう意識をもって過ごさないといけませんね。学校だけではなく社会で子どもを育てる。自分たちが生き生きと過ごす姿が子どもたちの目標や将来の夢にもつながってくると思います。

●市長

アジア人初の宇宙飛行士エリソン・オニヅカ氏の言葉を語り継いでいこうとしていたり、ラグビーチームルリー口福岡はリーグワン参入の目標を達成し次の目標に向かって進む姿があったり、やっぱりうきはならではの良い素材があると思いますね。

●伊東指導主事

先輩を招いて話を聞いたり意見交流をする「ようこそ先輩」というのが昔ありましたね。今後も続けられるよう仕組むことはできると思うので、まずは何かそういう情報収集をする必要がありますね。

●市長

ありがとうございました。

それでは他に意見がないようでしたら終了とさせていただきます。

様々なご意見をありがとうございました。

4 閉会